

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171000454		
法人名	医療法人社団 福寿会		
事業所名	コスモス苑「赤とんぼ」		
所在地	岐阜県郡上市白鳥町白鳥405番地8		
自己評価作成日	令和5年10月31日	評価結果市町村受理日	令和6年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2171000454-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JiyosyoCd=2171000454-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和5年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

町の中心に近いという環境の中で地域との交流を深めながら、その地域の一員としての意識を持ち、日々の生活で生きがいを感じ、心穏やかに生活できるような空間づくりに取り組んでいる。医療法人社団福寿会として、グループホームのほかにも、居宅介護支援事業所、特定施設入居者生活介護、短期入所生活介護等、各施設と連携を取りながら、入所者様やご家族様の希望に沿った総合的な支援に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人の医院や複数の施設と連携しながら、地域に根差した支援に取り組んでいる。敷地は広く、同法人事業所が立ち並ぶ中にカフェや散歩スペースもある。商店や美容院も近く、利用者は地域住民と交流しながら生き活きと暮らすことが出来ている。災害時には、地域の協力を得られる体制も整備されている。職員のライフスタイルに応じて学べる支援や、働きやすい職場環境作りに取り組み、ユースエール企業に認定されている。利用者の状態変化や職員の意向、要望にも柔軟に対応しながら、今年度は居室の増築と機械浴を導入するなど、利用者が最期まで穏やかに暮らせる質の高いサービス提供に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
44 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
45 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
46 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53 職員は、生き活きと働けている (参考項目:10,11)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
47 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
48 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
49 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目立つところに掲示しており、共有できている。理念に基づき利用者様が笑顔でその人らしく生活ができるよう努めている。	理念は、職員が常に確認できるよう事業所内に掲示している。利用者それぞれが、生きがいを持って笑顔で暮らせるよう見守り、入居前に行っていた事を継続できるよう支援している。また、安心して、日々、安全に暮らせるよう、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外気浴で地域の方との交流をする機会がある。駐車場を盆踊りの会場として提供したり、園児の鼓隊などの交流もある。	自治会とは協力関係にあり、コロナ禍前は、地域清掃日に地域の人対象に施設見学会を行っていた。地域の防災会議への参加や、中高生の職場体験の受け入れ、秋祭りの神楽や園児の訪問などを通して、地域交流を行っている。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在はコロナ化で開催はされていないが、開催時は様々な意見交換を行い、会議で得た情報はケア会議で共有している。	年3回開催の運営推進会議は、感染予防のため書面開催で行っているが、地域の感染拡大状況を見ながら対面に切り替えていく予定である。利用者状況や事業所運営を報告し、意見を得ている。今回も自治会からの助言で、防災頭巾を備えることになった。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営に関する質問や変更など市の担当者の方に相談し回答を得ている。また、現在はコロナ化の為にリモートで介護相談を行っている。	市の担当者とは、日常的に情報交換を行い協力関係を築いている。インフルエンザやコロナ感染症が流行している為、現在は電話やリモートを活用し、感染症や研修についての連絡、相談など行いながら連携を図っている。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを基本に目指しているが、やむを得ず拘束をする場合はご家族に相談し最小の同意のもと行っている。	毎月、ケア会議で身体拘束をしないケアについて話し合い、やむを得ず拘束が必要な場合は、3ヶ月ごとに家族に説明し同意を得ている。職員は、ヒヤリハットの報告、不適切ケアや接遇研修後のレポート提出等から、自らのケアを振り返り、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	身体拘束防止について、ケア会議の際に、話し合っている。利用者のケア状況を考え、課題点でもある「～かもしれない」と利用者の行動を予測し、検討する方法を取り入れるなど、身体拘束をしないケアへの、更なる取り組みに期待したい。
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強会を行い職員が意識を持ちながら防止に努めている。また、職員間でお互い注意を合い、虐待につながらないように努めている。	虐待防止については、毎月、会議で話し合っている。研修受講や学習会も実施し、年1回、虐待の芽チェックリストを活用して、ケアの振り返りを行っている。集計結果をもとに、各事業所で見直し、虐待防止の意識向上と適切なケアの徹底に取り組んでいる。	

岐阜県 コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は知っているが、まだまだ分からないことが多いので、学ぶ機会があれば参加したい。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については十分な説明を行い、利用者様、ご家族様に理解、納得を図っている。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話の際に現状をお伝えし、家族様からの要望を聞いた上で職員間で話し合いをしている。また、苑便りや、毎月1回お手紙でも状況を伝えている。	家族の意見や要望は、面会時や電話の際に管理者やケアマネジャー、職員が聴取しケアや運営に反映させている。毎月、職員が利用者の様子を書いた手紙を家族に送り、赤とんぼ便りと食事便りは隔月に送付し、家族の安心感につなげている。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議で職員の意見を聞き、運営に反映している。	代表の職員を大切にしている運営方針が、施設長や管理者に浸透している。管理者は、日常のケア業務にも就いており、普段から職員が意見や相談しやすい関係にある。また、毎日の朝礼や月1回開催のケア会議では、職員の意見や要望を聴き、運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	職員の個々の生活スタイルに合わせて勤務できるように配慮している。また、資格取得支援もしている。	職員個々の生活に合わせた働き方に配慮し、希望の休日や産休・育休等の取得を支援している。また、資格取得の援助などを行いながら、積極的に職員育成に取り組んでおり、ユースエール企業に認定されている。職員面談で個々の生活やキャリアプランについて相談を受け、支援している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や勉強会などの機会を設け、職員一人ひとりのスキルアップにつなげている。	職員の資格取得や内外の研修受講を奨励している。新人職員が安心して働ける教育体制も整っている。外国籍職員にも、研修受講や資格取得を支援している。職員自身が親族や知人に働きやすい職場と勧めしており、人材確保にもつながっている。	仕事や働き方についての将来のビジョンを実現するために、職員自身がキャリアプランを立てられるよう、キャリアパスなどを分かりやすく可視化して職員に提示するなど、取り組みに期待したい。

岐阜県 コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	現在コロナ化の為他施設との交流がないが、機会があれば交流に参加してより良い介護につなげたい。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の要望に応えられるように、コミュニケーションをとり、職員や他者との共同生活が楽しく円滑にいくように職員一同協力合っている。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネを中心としてご本人、ご家族様の希望や意向を情報収集している。	日々の生活支援時に、利用者の希望や意向を聴いている。意思疎通が困難な人には、話しかけた時の表情や反応の変化、家族から得た情報等から把握に努めている。新たに知り得た情報は、申し送りやケア会議で共有しケアに反映させている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様やご本人から要望を伺い、ケア会議で話し合い、意見を取り入れながらご本人の現状にあった介護計画を立てている。	介護計画は、ケアマネジャーがモニタリング表を基に職員、医師、看護師、栄養士の意見を集約し作成している。また、家族の意向を聴きながら計画に反映させている。職員は、利用者個々の介護計画を把握し、計画に沿った支援に取り組んでいる。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員が個人記録や申し送り等で把握し、情報を共有している。	介護計画書や介護記録は所定の場所に置き、職員は常に計画や記録を確認しながらケアを展開している。介護記録や申し送りノートにより、職員間で情報を共有している。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状態に合わせ、急な面会など柔軟な対応をしてる。	コロナ感染予防対策として、外出等を制限しているが、法人敷地内のカフェで、利用者と地域住民が交流している。地域の国際交流会にて、外国籍職員出身国の料理や文化を紹介するなど、地域住民との交流会も行っている。	

岐阜県 コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在コロナで制限があるが、盆踊りなど地域の方との交流をして楽しんでいただいている。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族様の意向を大切にしており、かかりつけ医と連携し、適切な医療が受けられるように支援している。	契約時に、従前のかかりつけ医、または協力医の選択ができることを説明している。従前のかかりつけ医への通院は、家族の協力を得ている。歯科への往診を利用している利用者もある。法人医院の医師や協力医療機関と連携し、24時間の医療支援体制がある。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にサマリー、紹介状を職員が同行持参し医療機関と情報を共有している。退院に向けては病院からの情報を聞き協力をいただいている。	利用者が入院する際には、看護師が入院時サマリーを作成し医療機関へ情報を提供している。利用者の状態変化時に母体法人の医師が対応することも多くなり、入院せずに事業所内で過ごせる利用者も多くなっている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の対応についてご家族に説明している。利用者様が重度化になった場合はご家族様の意向を伺い、主治医と職員とで連携しターミナルケアを実施している。	契約時に、利用者・家族に重度化や看取りの対応について説明し同意を得ている。状態変化があった場合は、早期に話し合いながら意向を再確認している。看取り期は、本人や家族が望む支援に努め、介護記録や申し送りノートで情報を共有し、どの職員でも対応ができるよう研修を重ねている。	看取り中だけでなく、看取り後にデスクカンファレンスも行っている。利用者や家族の状況・経過と共に、職員の気持ちの変化・葛藤、経験、課題対処法など、検討内容を職員間で共有するなど、さらなるスキルアップに期待したい。
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や看護師に報告、相談をして指示を受け対応している。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練や避難訓練を定期的実施している。 また、災害発生時用に非常食等の備蓄も確保している。	災害時における福祉避難所として受け入れ経験がある。水害想定訓練での垂直避難や夜間想定火災訓練、ガスを使ったの炊き出し訓練を実施している。備蓄品、防災頭巾、発電機の準備がある。地域の防災会議に参加し地域住民や消防署との協力関係も構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格や状態を理解、尊重して言葉かけ等配慮した対応をしている。	管理者は、ケア時や朝礼・会議で、利用者の人格の尊重やプライバシーを損ねない言葉かけと対応を常に意識し、実践するよう職員に伝えている。同性介護希望にも対応している。年1回、不適切ケアのチェックシートで職員自らのケアを振り返り、利用者尊重のケアに努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員本位には決してならず、利用者様の思いを聞き自己決定ができるように支援している。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、日々の生活が希望に沿えるよう支援している。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを書いていたいたり、片付けや机をふいていたいたりしている。また、季節に合わせたメニューを提供して食事を楽しんでいたっている。	栄養士が利用者の希望を反映させた献立を作り、主食と汁物は事業所で準備、副菜は法人内の厨房で調理している。敷地内で採れた野菜や果物を活用し、漬物作りや行事食作りなど、季節感と馴染みの味で食の楽しみにつなげている。利用者も盛り付けや片付けなどを手伝っている。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士を中心に一人ひとりに合わせた量、食事形態を提供している。水分はお茶等で摂取ができない場合は水分ゼリーを提供し摂取していただいている。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりの状態にあった口腔ケアを実施している。夜間は義歯を預かり、洗浄液で清潔に保っている。	毎食後の口腔ケアを実施している。自立している利用者は見守り、声掛けや仕上げなどは、利用者の状態に応じて支援している。歯科の往診希望や、治療の必要性がある利用者には歯科医への依頼や通院支援を家族の協力を得ながら行っている。	

岐阜県 コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、それぞれのペースに合わせて声掛けやトイレ誘導をしている。職員が二人介助するなど安全にも十分配慮してトイレでの排泄を継続していただいている。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日や時間は決めているが、ご本人の都合や体調に合わせて時間や曜日をずらして対応している。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や希望を聞き居室で休んでいただいている。夜間は安眠ができるように、日中体操、外気浴で活動していただいている。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更があった場合等看護師や処方記録を確認しながら使用している薬を把握している。	薬剤師と連携しながら薬剤管理をしている。事務所に専用ボックスを設置し、夜勤者が利用者毎に仕分けし、朝勤務の職員が確認、服薬担当職員が再確認するトリプルチェックで誤薬を防いでいる。落薬があった場合は、状況を検証し原因究明と再発防止を図っている。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	床掃除や編み物、習字や洗濯たたみ等それぞれの得意なことをしていただいたり、散歩など気分転換も行っている。	可能な限り外気に触れる機会を作り、支援している。また、利用者が生きがいを持って暮らせるよう、野菜作りや大根漬け、掃除や洗濯たたみなど、日々の生活の中で、やりたいこと、出来る事を自由に行える機会と環境を整備している。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在コロナの為外出の支援は難しいが、苑内の散歩や外気浴は積極的に行っている。	法人の敷地は広く、利用者が季節を感じられる多くの果樹や紅葉する木々、季節毎に咲く花々などが植えてある。同法人事業所、カフェ、クリニックが立ち並び、近隣の商店や美容院に出かけたり、周辺の散策を楽しんでいる。コロナとインフルエンザの流行状況を見ながら、外出支援の拡大を検討している。	

岐阜県 コスモス苑「赤とんぼ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの防止の為 事務所で管理している。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はいつでもご家族と会話ができるように支援している。また、コロナでオンライン面会でお話もされている。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にあった展示物や花を飾っている。ご利用者様に確認して室温も調整している。	感染予防対策の為、共有空間への入室を控え、窓越しの見学と写真や動画での確認となる。利用者作品が飾ってあるリビングや廊下の様子、また、キッチンで生き生き過ごす利用者の様子を観ることができた。今年度、利用者の重度化への対応として、浴室を改装し機械浴の導入と居室を一室増床している。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う人同士近い席に配置をしたり、本を読んでみえたり、ぬり絵をしてみえたり思い思いの時間を過ごしていただいている。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に写真や作品を飾ったり、なじみの物を置くことで安心して居心地よく過ごしていただけるように工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の危険な場所を把握し、利用者様にとって障害物となるものを設置しないように、安全かつ自立した生活が送れるように支援している。		